

1月17日のIGSセミナーのゲストスピーカーは、サステナブル・アカデミー・ジャパンという環境教育NGO組織の代表をしている下重喜代さんです。

「自然は私たちが生きるための前提条件です。野外での楽しい遊びを通して、心身を育て五感を鍛えながら自然の仕組み（エコロジー）を学ぶことで、子どもの『生きる力』や脳の発達をも促進します。北欧では、持続可能な社会の担い手、民主主義の担い手の育成に必要なプログラムとして、野外活動が就学前教育に導入されています。」（サステナブル・アカデミー・ジャパンホームページより <https://www.susaca.org/>）

この幅広い活動の中から、今回のセミナーでは下重氏が、長年、北欧の幼児教育の現場を視察してきた最新の情報を提供していただき、日本での現状を考えるヒントをいただきます。下重氏の報告を受けて、篠塚英子氏からは、現在の安倍政権下で行われている女性の働き方や保育問題からみた日本の幼児教育の在り方などをコメントしていただき、参加者のみなさんと議論を重ねたいと思います。

ゲストスピーカー **下重 喜代** (サステナブル・アカデミー・ジャパン代表)

コメンテーター **篠塚 英子** (お茶の水女子大学名誉教授)

司 会 **佐野 潤子** (IGS 特任リサーチフェロー)

定員 30 名

要事前申込（右のQRコードか、IGSのウェブサイトからお申込みください）



日時：2018年1月17日（水）15時～17時

会場：お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科棟 604 室
（本館 135 から会場が変更になりました）

政治や制度が子どもに及ぼす影響について

北欧の幼児教育から 日本を考える